

3/29 第12回定例理事会開催

(1)2018年度各事業年間営業 供給日程の件
2018年度の事業(パルシステム事業、福祉事業)の日程について議決しました。

(2)長期住所不明組合員の2017年度みなし自由脱退承認の件
定款に基づき、2018年3月31日付で長期(2年以上)にわたって住所不明で連絡が取れない組合員5,344名に対して、脱退処理を行うことを議決しました。

(3)2018年度役員報酬上限額決定の件
2018年度の役員報酬上限額における理事分・監事分の配分について議決しました。

(4)2017年度決算に向けた方針及び剰余金処分案方針決定の件
2017年度決算に向け、会計処理の方針と剰余金処分案の策定方針について議決しました。

(5)パルシステム生活協同組合連合会との「分担費等」決定の件
パルシステム東京及びグループ生協は、商品カタログの製作や商品の仕分け、請求処理などをパルシステム生活協同組合連合会(以下連合会)に委託し、その費用を事業規模等に応じて分担して支払っています。2018年度の「分担費の料率等」の上限について議決しました。

(6)2018年度 損益予算案決定の件
第3回総代会議にて、理事会より総代へ提案する2018年度の損益予算案について議決しました。

(7)「役員人事委員会」の設置及び委員選任並びに諮問の件
第12期の「役員人事委員会」の委員10名の選任と諮問事項について議決しました。

(8)「生活協同組合パルシステム東京 食育政策」改定承認の件
2009年3月に制定されて以降8年が経過し、今後の食育政策を実現するために行動計画を見直す趣旨で改定しました。

(9)2018年第3回総代会議招集及び「第26回通常総代会議案第二次案」決定の件
第3回総代会議の開催概要と、理事会が提案する「第26回通常総代会議案 第二次案」について議決しました。

4/12~20 第3回総代会議を開催しました

6月12日に開催する「第26回通常総代会」で議決する議案の作成に向け、理事会と総代が討議する「第3回総代会議」が6会場で開催されました。

理事会から事業と活動の報告と次年度の取り組みが提案されたあと、総代が質問や意見を発言。活発な討議になりました。



理事運営チームメンバーの総代から、「通常総代会」当日の議事の進め方の説明も行なわれました(4月20日開催の武蔵野スイングホール会場にて)

3月 data 総事業高 64億9,672万円

組合員数：47万8,796人 予算比101.8% 予算達成

リソース・リサイクル回収率

商品カタログ	78.5%↑	紙パック	72.6%↑	資源プラスチック類	36.5%↑
卵パック	83.5%↑	ABパック	42.4%↓	リソースびん	59.9%↓
お料理セットトレイ	64.4%↑			米袋	36.3%↑

はじめませんか エコライフ!

かいぼりでよみがえる井の頭池

井の頭恩賜公園でのかいぼりを振り返ってみました。

1回目 2014年1~3月(池の一部)

30年ぶりにあらわになる池底

生き物採取結果
在来種 16.4%
外来種 83.6%

大量の投棄自転車が話題に

2回目 2015年11月~2016年3月(池全域)

30年ぶりにあらわになる池底

生き物採取結果
在来種 40.4%
外来種 59.6%

投網師に向かって魚を追い込む様子

60年の封印が解けて...
お目覚めですか?
水草地!

アナタは、かつ、かいぼり王子?!

3回目 2017年12月~2018年3月(池全域)

2016年から始まったパルシステム東京主催「かいぼりまるわが川ツアー」の様子

生き物採取結果
在来種 91.4%
外来種 8.6%

魚や昆虫が増えたことで水鳥もにぎわいをみせている

地域の仲間とつながり

もともとかいぼりは農業用の溜め池を維持するのに行われた行事。捕った魚をみんなで食べるなど、農家同士の絆を深める役割も果たしていました。

「今でも同じです。近くの池のかいぼりに参加することで、仲間との交流が深まったり、地域の自然を大切にすることが育ちます。何より子どもから大人まで、誰もが楽しめるのがよいですね」と片岡さん。

みなさんも、近所の池や水場に興味をもってみませんか?

飼っている金魚も池に放せば外来種

外来種とは外国から来た生き物に限らず、人が外部から持ち込んだ生き物のことです。ペットとして飼っている金魚や亀も、池に放せば外来種となり池の調和を崩します。

かいぼりで駆除された外来種の命は、本来は奪われるはずのなかったもの。ペットは最後まで責任をもって飼いましょう。

井の頭かいぼり隊(市民ボランティア)による外来種型鑑賞
2017年12月

池の水をぜんぶ抜く
かいぼりの目的って何だ?

- 昔から農業用の溜め池を維持する目的で行われてきた
- 都市部ではおもに公園池などの水質改善や、生態系の回復が目的
- 参加することで市民のつながりを深める効果も



漫画ノ小犬丸舟子

「池の底から自転車が…」など、「川」の発掘に関心が集まりがちな「かいぼり」。けれども目的は池の掃除の先にある大切なことでした。

かいぼりが必要な池とは?

緑褐色に濁った水の中で、大きなゴミがひしめくようにエサを求める姿…。私たちがよく見る池の風景ですが、これこそかいぼりが必要な池だと、認定NPO法人生態工場の片岡友美さんは話します。

「在来生物が減り、調和が崩れてしまった池の典型です。かいぼりはそのような池を多様な生物でにぎわう本来の姿に戻す、自然再生の手段です」

水草は多様性を生み出す装置

かいぼりブームの火付け役となった井の頭池では、2014年から3回のかいぼりを実施し、劇的な回復を遂げています。

中でも注目の成果は、約60年前に絶滅したと考えられていた水草、イノカシラフラスコモの発芽でした。かいぼりで外来魚等を排除し、池底を干して水の透明度が増したことで、池底に眠っていた種が長い眠りから覚めたのです。

「水草はさまざまな生き物の生息基盤です。かいぼりによって水草が復活したことは、生物多様性保全において重要なポイントです」と片岡さんは話します。



今月のキーワード

かいぼり

取材は2018年5月18日現在